

ごあいさつ



富士通電装株式会社
取締役会長
中村 泰



富士通電装株式会社
代表取締役社長
三嶋 友安

最近、各方面から富士通電装の業績について高い評価をいただいております。まことに光栄なことで喜んでおります。たしかに景気が不透明な状況の中で三年連続の増収増益を果たすという大きな公約を達成できたので、体質の改善と体力の強化に自信を持って来ましたが、決しておごることなく一層優れた製品とシステムの提供を推進して参りますのでご期待をいただきたく存じます。

1996年度の当社の最大の目標は、通信技術を応用した社会システムをビジネスとして増強し成功させることであり、そのために開発体制の拡張と新しい関城工場の立ち上げに全力投球中であります。特に新工場は筑波山を望む景勝の地に55,000平方メートルのゆったりとした敷地を有し、社会システムのあらゆる構成に対応して徹底した追求が可能な設備に仕立てあげ、秋からの本格稼働に臨んでおります。本誌にも幾多の関連システムや機器が紹介されていますが日本の社会の情報化に必須な公共システムが続々と関城工場から出荷されることを心から願っている次第であります。

もう一つの課題は昨年より製品として提供を始めた指紋認識装置（フィンガーパス）を、市場に浸透させて、強く要望されている社会の安全のお役に立ちたいということでもあります。すでに導入済みの企業からはその性能と効果について過分の賛辞をいただいております。国内、海外からの引き合いが増加して来ましたので、用途に合わせた応用設計に力を注ぎ、逐次、市場に出荷して参ります。

主力機種であります通信機器やネットワーク機器および電源装置はインターネット時代にマッチした高速、高性能の新型を従来以上にタイミング良く提供いたしますのでご愛用をお願い申し上げます。これらの機器の詳細も含めて本誌は、昨年の総合展特集以来の技術開発の成果とトピックスをご紹介します。皆様のご参考になれば大きな喜びであります。

最後に去る6月末の株主総会にて、富士通電装の新会長に中村泰が、また新社長に三嶋友安が選任されましたが、両名揃って社業に邁進し更に高い目標を達成することをお約束申し上げてごあいさつとさせていただきます。